

第44回 医療薬学公開シンポジウム報告

第44回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長 藤戸 博

平成23年10月23日(日)に佐賀市のアバンセホールにおいて、日本医療薬学会主催、佐賀県病院薬剤師会および佐賀県薬剤師会の後援で、第44回日本医療薬学会公開シンポジウムを開催いたしました。佐賀県内だけではなく、九州各県から、遠くは沖縄県や鹿児島県からも参加があり、当日の参加者は124名となりました。

本シンポジウムは、「在宅医療を支える医療薬学」をメインテーマに、「外来患者のための医療連携を考える」をサブテーマとして行いました。

まず、最初に、聖隷三方原病院泌尿器科部長の永江浩史先生に基調講演をお願いし、永江先生からは、患者の情報不足に対して薬剤師がどう対処すべきかや、在宅(外来)患者ケアに対して薬剤師の働きがまだまだ不十分であるという耳の痛い話もありましたが、医師として薬剤師を応援している立場だからこそその発言だったと感じております。

次に、病院薬剤師2名、保険薬局薬剤師2名の薬剤師に講演して頂きました。佐賀大学病院薬剤部の江本晶子先生には入院時から退院時までの医療連携について、また、佐賀大学病院薬剤部の持永早希子先生には外来化学療法治療時の病院と地域薬局との連携に患者者情報の不足を補うためにマイカルテの取り組みについてお話を頂きました。さらに、保険薬局薬剤師の立場から、東町わたや薬局の松雪幹一先生には佐賀県における在宅医療への取り組みの実状を、また、在宅患者訪問薬剤管理指導を専門に行っているらいふ薬局の大石学先生には、現在行っている在宅医療の実例を紹介し、患者が求める薬剤師業務についてお話を頂きました。

総合討論では、永江先生から各シンポジストへのコメントを頂き、医師の立場からのアドバイスおよび叱咤激励のお言葉を頂きました。会場からも積極的な意見や質問があり、シンポジウムの予定時刻を少し超過するほどの盛況でした。

今回のシンポジウムでは、自宅で生活しながら、外来診療や往診・訪問看護で療養している患者に、病院薬剤師や薬局薬剤師が地域の他の医療スタッフと協力・連携して薬剤師の専門性を発揮できる業務を、積極的に行っていくことの重要性を再認識することができました。

最後に、本シンポジウムのご講演を快くお引き受け頂いた永江浩史先生、江本晶子先生、持永早希子先生、松雪幹一先生、大石学先生、座長の労をおとりいただいた奥平猷先生、中野行孝先生、また運営にあたりご理解とご協力とご支援を頂いた多数の皆さまおよび参加者の方々に、厚く御礼申し上げます。